

## 大学 — 自治体間連携への大きな期待



神奈川県知事 黒岩 祐治

本県は、東日本大震災の教訓を活かした防災対策の強化やエネルギー政策の見直しなど喫緊の課題に加え、確実に到来する超高齢社会への備えなどのさまざまな課題にも的確に対応していくため、平成24年3月に県の総合計画「かながわグランドデザイン」を策定しました。

この計画の基本理念である「いのち輝くマグネット神奈川」を実現するためには、県民、NPO、企業、団体、市町村などと情報や目的を共有しながら、神奈川の総力を結集し、新たな政策を共に創りあげることが必要です。そしてそれを、全国の先駆けとなる「神奈川モデル」として発信していきたいと考えています。

こうした中で、県内にある70を超える大学は、「いのち輝くマグネット神奈川」の実現を進める上での重要なパートナーであり、その高い研究レベルや自治体との協働の取組みの蓄積は、大きなポテンシャルとなるものです。

例えば、県内理工系大学との連携により開催している「中高生のためのサイエンスフェア」は、今年で4回目を数え、2000人を超える来場者で賑わい、すっかり夏の風物詩となっています。今年は、私も参加しましたが、出展している大学の研究レベルの高さ、説明に当たる学生の皆さんの熱意に感心しましたし、真剣にその説明を聞く中高生の姿は、神奈川の将来の担い手として大きな期待を抱かせてくれるものでした。

また、横浜市、川崎市と県が協力して取り組んでいる「ライフイノベーション国際戦略総合特区構想」は、企業、研究所等が連携することで、バイオやライフサイエンスの分野にイノベーションを起こし、その成果を県内のみならず、日本中、世界中のいのち、健康に役立てていくことを目的としています。ここでも大学が連携の大きな核となることが期待されます。

そこで本号では、「大学—自治体間連携の豊かな実りへ」と題して特集を組みました。県内にある国立、私立の2大学の学長と座談会を行い、大学と自治体の連携の未来について議論した内容を掲載するとともに、これまでに大学発・政策提案制度で採択された取組みの成果等をご紹介します。

また、「政策研究の具現化へ向けて」として昨年度のシンクタンク神奈川の研究報告を、「東日本大震災から新たな防災へ」として県や大学、市町村の取組みやボランティア支援の取組み状況を取り上げています。

今後とも、大学をはじめとするさまざまな主体との連携・協働の一層の推進を図り、その知見や人材を活かしたご支援を頂きながら、県民の総力を結集して「いのち輝くマグネット神奈川」の実現を目指していきたいと考えております。